様式第１号（第１０条関係）

2023（令和 5）年度業務実績報告書

提出日　2024（令和 6）年 1 月 18 日

１．職名・氏名　　教授・木野龍太郎

２．学位　　学位　博士（経営学）　、専門分野　工業経営論・生産管理論　、
授与機関　立命館大学　、授与年　1999 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
生産管理論Ⅰ（2）3 年生配当

② 内容・ねらい
モノづくりの技術（生産技術）のなかの製造技術を取り扱い、モノづくりの歴史的な流れを概説したうえで、トヨタ生産方式に代表されるような、日本の製造技術の特徴について講義を行う。管理手法そのものだけでなく、日本企業の持つ競争力と、それを支える技術という側面に着目して、進めていっている。モノづくりに関する基礎知識と歴史的経緯、そして日本の代表的な生産方式であるトヨタ生産方式の仕組み、さらに日本の高品質なモノづくりの土台となっている品質管理手法について学ぶことで、日本の製造技術の発展の経緯や、その競争力の源泉などについて、理解を深めることを目標としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 本年より対面講義を再開しているが、遠隔講義で使用していたツールを併用することで、理解を深める取り組みを行っている。
2. 具体的には、Google Classroom（以下、GC）を主な授業支援ツールとして活用し、配付資料や連絡事項も全て GC にアップロードし、復習がやりやすく出来るように受講生の利便性を図った。関連するウェブサイトや動画資料などを GC にアップロードし、予習・復習などに活用出来る工夫を行っている。
3. 基本的な事項をきちんと理解できるように内容を絞り込んだうえで、講義の復習を促すために毎回の小テストを実施し、単元ごとに提出課題を課すことで、知識の定着を図っている。出席者からは講義の復習になり、理解が深まる、といった肯定的な感想が出されている。
4. 講義内容については、工学的知識をあまり持たない学生であっても理解できるように、なるべく難しい専門用語を使うことは避けた説明を行った。
5. 福井県はモノづくりの盛んな地域であることから、その地域性を活かして地元企業の実例を積極的に取り上げて、理論と実践とをあわせて学ぶことによって、講義内容への理解を深めるとともに、地域への理解を深めることで地元のモノづくり企業が将来の進路となり得ることがイメージ出来るようになった。
6. 授業の内容をサポートする形で動画資料を積極的に活用し、講義内容と関わらせながら解説を行うことで、内容の理解を深める取り組みを行っている。また、必ず感想文を書かせて内容の定着を図るとともに、その内容を授業にフィードバックすることも行っている。上述のように、動画資料は GC にアップロードして何度も見直しが出来るようにしている。当該科目の分野については、学生が日常触れる機会が少ないことから、動画を視聴することで講義内容の理解が深まり関心が高まったという肯定的な感想が多く見られている。
7. 主に福井県内の製造企業の経営者や若手社員をゲストスピーカーとしてお招きし、会社概要やその会社の取り組みに加えて、実際にどのような仕事をしているのかについてもお話頂くことで、経営学の勉強だけでなく将来の進路を考えるうえで役立つようにしている。今年度は本学卒業生をお招きしてお話頂いたことで、学生がよりイメージしやすくなっている)。
☆本年度ゲスト講義**【ゲストスピーカー　2 名】**
株式会社 SHINDO（あわら市）2023 年 7 月 24 日実施
・同社 総務部 部長 三崎 智史 氏

・同社 繊維カンパニー 営業３部 北出 こづえ 氏（本学経営学科卒業生）
福井県は特長ある技術を持った製造企業が多いため､そうした事例は経営学を学ぶうえでの最高の教材であると考えて､それぞれの事例を講義内容と関わらせながら進めていくことでイメージが持ちやすくなり、講義内容をより深く理解することにつながっている。また、ゲストスピーカーが所属する企業は、一般の学生にはなかなか馴染がない企業であることから､採用活動に関する積極的なアピールとして活用することが出来るということもあり､企業サイドにも喜ばれている。実際に採用のエントリー数が増加するなど､双方にメリットがある取り組みとなっている。

8. 3. の小テスト及び確認テスト、6.の動画資料活用、7.のゲスト講義においては、学生の意見を取り込むとともに、質問には電子メールを使って回答するなどによって、双方向的な講義を心がけており、一方向的な講義にならないようにしている。
9. 講義内容が現実の社会とどのように関わっているのかを、学生が理解しやすくするために、しばしば新聞記事などを資料として配布し、理解をさらに深められるようにするとともに、新聞から積極的に知識を吸収することを促している。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
生産管理論Ⅱ（2）3 年生配当

② 内容・ねらい
「生産管理論Ⅰ」で学んだ製造技術に関する知識を踏まえて、本講義では製品技術を主に取り扱い、日本の製造企業における研究開発体制の特徴と、サプライヤー（資材・部品供給会社）との企業間関係の態様、そして製造業における人材育成や管理と、その背景にある労使関係などについて学ぶ。日本のモノづくりにおける製品開発・購買管理についての知識を深め、それが製造企業の競争力とどのように関わっているのか、またモノづくりの土台ともいえる人事管理・人材育成について学ぶことで、「生産管理論Ⅰ」「生産管理論Ⅱ」とあわせて、日本のモノづくりの技術の全体像とその特徴、競争力との関係について理解を深めることを目標とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 基本的な進め方は「生産管理論Ⅰ」と同じだが、主な受講生である 3 年生が就職活動の直前であることもあり、特に福井県内において盛んな製造業への就職活動を行う際に、知識として役立つ内容を盛り込むことで、学生の進路選択に役立たせるとともに、学習意欲の向上も図っている。
☆本年度ゲスト講師**【ゲストスピーカー　2 名】**
・大喜株式会社（坂井市丸岡町）2024 年 1 月 22 日実施予定
・同社 代表取締役社長 山本 岳由 氏
・同社 デザイン担当 小西 亜希羅 氏（本学経営学科卒業生）

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
基礎ゼミ（2）2 年生配当

② 内容・ねらい
「モノづくり」を行う企業の経営活動についての資料を読むことによって、企業経営全般について学ぶ。具体的には、資料に基づいて受講者が報告を行い、そこで提示された論点について議論を行っていくことによって、企業経営活動に関する知識を深め、また、資料作成の方法、経営学的な視点、ディスカッションの方法について学ぶ。企業経営（特にモノづくり）に関する知識を深めるとともに、論理的な思考方法や、ディスカッション、プレゼンテーションなどに関するスキルも、高めていけるようにすることが目標である。加えて、これらを学ぶことで、今後の学習計画策定、進路決定につなげていけるようにする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 受講生は、テキストに基づいて分担して報告資料を作成し報告を行う。報告者は、報告のなかでそのテーマに関する「論点」を提示し、議論を行うためのたたき台を提示する。
2. 報告資料は事前に担当教員がチェックを行い、問題がある場合は再提出を求めて、ディスカッションのベースとなりうる資料になるまで徹底して指導を行っている。
3. 報告者のほかに、司会、書記及び議事録作成についてもそれぞれの受講生が担当して、ディスカッションを行っていく。司会は受講者全員がきちんと議論に参加して意見を述べそれら

を整理し、それを全体で共有化できるように書記がまとめていく。議事録作成担当は、そうした内容をまとめて次回に報告し、どのような報告、議論が行われていたのかをきちんと残すようにしている。それぞれを全員が担当するようにローテーションさせて、こうした能力を高めていけるようにしている。

4. なるべく受講生が企業経営の全体像を掴み興味を持ってもらえるように、テキストは平易かつ全般的な内容であり、なるべくアップデートな内容のものを選ぶようにしている。
5. 演習Ⅰ、演習Ⅱの受講生とともに、主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。

☆本年度学外実習**【フィールドワーク等　3件】**

・福井県工業技術センター（福井市）2023年4月20日訪問
・ふくいDXオープンラボ（坂井市丸岡町）2023年7月11日訪問
・光生アルミニューム工業株式会社（福井市）2023年7月17日訪問　※合同

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

演習Ⅰ（2）3年生配当

② 内容・ねらい

前期は共通テキストを用いてモノづくりの基本的な仕組みを学ぶ。後期からは、自分自身の学問的関心に基づいてテーマを設定し、各自が調べてきた内容をゼミで報告し、議論をしていきながら、卒業論文の基礎となる部分を作り、演習Ⅱの卒業論文作成につなげていく。

ねらいの1つは、モノづくりに関する様々な知識や考え方を学び、また、それに関して議論を行うことによって、企業経営や経済の動向に関する知識を深めるとともに、論理的な思考や分析が出来るようになることである。もう1つは、卒業論文の作成に向けて準備を行っていくなかで、各自がテーマを設定し、資料を調べてまとめるなど、受動的な学習から脱却し、自らの問題意識に基づいて、物事を探求することができるようになることである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. 前期では、受講生はテキストに基づいて報告資料を作成し報告を行う。報告者は、報告のなかでそのテーマに関する「論点」を提示し、議論を行うためのたたき台を提示する。なお、報告資料は事前に担当教員がチェックを行い、必要に応じて再提出を求めて、ディスカッションのベースとなりうる資料になるまで徹底して指導を行っている。
2. 製造現場にて撮影したビデオを用いて時間計測の実習を行い、計測したデータを基にして、現場改善につなげるための図表等を作成、改善案を提案させるということを行っている。現場作業の大変さや、工程設計の実態の理解、作業のムダを無くすことの重要性を理解させることにつなげている。
3. 後期には、卒業論文作成のための構想案作成および資料収集を行い、進捗状況を報告していく形を取る。卒業論文はあくまでも学術論文であるという位置づけから、単なる既存文献の知識をまとめただけではなく、必ず「新しい知見」の発見を求めている。そのためには、既存の研究成果をきちんとおさえたうえで、その研究の学術的・社会的な意義や歴史的経緯を踏まえて取り組むよう指導している。具体的には、自分自身でテーマを決め、卒業論文の構想案を作成したうえで、半年間で複数回の報告を義務づけて、資料の作成・報告・ディスカッションを行っている。こうした作業を通じて、大学における「学び」の意味を理解し、また論理的な思考力を高めていけるようにしている。そのため、ゼミで使用する「学術論文の作成要領」を別途作成し、学術論文とはどういうものか、一般的な文章との違いは何かということから、具体的な記述方法、資料収集の方法などについても詳細に説明し、学生に配布するとともに、オフィスアワーなどを活用して別途指導を行うことでフォローを行っている。
4. 主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問等を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。訪問した福井県内企業のなかには本学の卒業生・修了生が勤務しており、経営学の学習だけでなく就職に際しての心構えやアドバイスなどをもらうことができた。また、自分自身の研究・教育に関するネットワークを拡げることにもつながった。

☆本年度学外実習**【フィールドワーク等　4件】**

・光生アルミニューム工業株式会社（福井市）2023 年 7 月 17 日訪問　※合同
・福井県工業技術センター（福井市）2023 年 8 月 4 日訪問
・北陸技術交流テクノフェア（福井市）2023 年 10 月 19 日訪問
・第一ビニール株式会社（坂井市春江町）2024 年 1 月 31 日見学予定
なお、北陸技術交流テクノフェア見学については、今年初めての試みとして、北陸技術交流テクノフェア実行委員会（事務局：福井商工会議所）との連携による学生向け企画を実施し、大型バス 2 台を借りて経済学部の複数のゼミが参加し、学生約 80 名が福井県内企業の新技術について学ぶとともに、ビジネスマッチングの現場を見学することで、BtoB ビジネスの実態について知ることが出来た。あわせて、福井県情報システム工業会とも連携して、同時開催の「ふくい IT フォーラム」の学生見学会も並行して実施し、DX 分野への関心を高める取り組みも行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅱ（2）3 年生配当

② 内容・ねらい
受講生は、「演習Ⅰ」で学んだ内容を基にして、各人が設定した卒業論文のテーマに沿った形で、論文の構想案（問題意識、目的と意義、課題、方法、章構成など）を作成し、必要な資料を収集して、ゼミにて報告を行う。そこでの議論を通じて問題意識を明確にしていく。また、これらを踏まえて受講生には実態調査（企業などへのヒアリング）も実施するように指導している。ゼミでの報告・議論を通じて内容を詰めて、方向を明確にしていきながら卒業研究を進め、最終的に論文を仕上げることが出来るようにする。ここでは、卒業論文の作成を通じて、論理的な思考能力を高めるとともに、そのことを文章としてどのようにしてまとめていくかという、文書作成能力についても高めていくことを目標としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問等を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。
☆本年度学外実習**【フィールドワーク等　1 件】**
・光生アルミニューム工業株式会社（福井市）2023 年 7 月 17 日訪問　※合同
2. 卒業論文作成においては、必ず実際の企業への聞き取り調査を行うように指導しており、あわせて「インタビュー調査の実施要項」を作成し、受講生に配布している。これによって、講義で学んだ知識が企業経営の現場とどのようにつながっているかを、より深く知ることが出来るとともに、調査対象の選定、アポ取り、質問状の作成、原稿の内容確認といった一連の手続きを行うなかで、社会に出たときに役立つようにしている。これを通じて、文書作成からビジネスマナーに至るまで詳細に指導しており、社会にでも役立つと考えている。
3. 「学術論文としての卒業論文」という位置づけを明確にしており、論文の体裁や引用の方法、文章の記載方法などについて詳細に指導している。中身についても、先行研究のフォローや新しい知見の発見に重きを置いている。そのため、早めにテーマ設定を行い、通常のゼミの時間以外でも頻繁に個別指導を行うなどすることで、大学での学習の集大成としての卒業論文を、より良いものにするようにしている。
4. 卒業論文報告会を実施し、卒業論文の内容についてパワーポイントで作成・説明をすることを通じて、プレゼンテーションの経験も積ませるようにしている。また、報告会にはゼミの後輩も参加し、次年度の参考になるようにしている。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経営学総論Ⅱ（2）1 年生配当

② 内容・ねらい
1. 「経営学総論Ⅰ」で学んだ内容に基づき、経営学科教員がそれぞれの担当する専門科目の概要について講義を行うことで、経営学の基礎的な知識を網羅的に学び、次年度以降の学修の方向性や履修科目の選択に役立てられるようにする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. セメスター・15 コマの講義を、経営学科の教員がそれぞれ 1 コマ担当し、それぞれの講義

は、各専門科目の導入的な内容として、(各専門教育科目の初回講義のイメージ)、今後の講義やゼミの選択に役立てられるようにしている。
2. 各講義を担当する教員間の情報共有については、Google Classroom や Google Drive を活用することによって、講義内容の充実を図っている。
3. 各講義の終了時に課題を出すことで、受講生の知識定着を図るとともに、学生の理解度を教員間でも共有することで、今後の教育に役立てている。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
生産管理・生産革新論（2）博士前期課程１年次配当　※隔年開講（奇数年度）

② 内容・ねらい
1. 大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社、1978 年、をテキストとし、それを受講生が分担して報告を行い（輪読)、あわせて報告者が、自らの学問的関心に基づいて、その内容に関わった「論点」をいくつか提起する。これを中心として議論を進めるという形を取る。
2. 現在、多方面で注目されているトヨタ生産方式について学び、これを素材とした議論を通じて、その具体的な内容に関する知識を高め、これをより深く理解すること、そして、モノづくりにおける競争力の中身について、生産技術（製造技術・製品技術）との関連から分析を行うことによって、日本のモノづくりの「強み」の源泉を考察し、これを多角的な視点から捉えることが出来るようになることが狙いである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 受講生には社会人が多く、実践的な取り組みについての関心が高いことから、トヨタ生産方式の知識をどのように応用することが出来るのかを意識して議論を行っていくことで、より実践的な知識として学べるようにしている。
2. 担当者が調査などで見学してきた企業におけるトヨタ生産方式の導入の実態を織り交ぜて説明をすることで、教科書に載っている知識だけではない実際の現場の姿についても理解を深めてもらうようにしている。また、適切なビデオ教材も活用し、興味関心を高め理解を深めるように試みている。
3. 製造現場にて撮影したビデオを用いて時間計測の実習を行い、計測したデータを基にして、標準作業組合せ票などの現場改善のための図表を作成、改善案を提案するということを行っている。これは現場作業の大変さや、作業のムダを無くすことの重要性を理解させることに非常に役立っている。
4. それぞれの受講生からも、受講生自身の経験から得られた知識などをなるべく提供してもらうようにすることで、双方向的な授業を行い、福井県における「モノづくり」の特徴と、今後の方策などについて議論を行うことで、受講生が授業に積極的に参加し、学習への意欲を高めるようにしている。特に、生産管理と会計との関連についても積極的に意見交換する機会を増やすことで、本学大学院に多く在籍する税理士志望院生にとって、将来の業務に役立てられるようにしている。
5. 授業での議論を通じて、学術的・体系的・論理的な思考方法についても触れ、受講者が高度な理論体系に基づく、経営実践への取り組みにつなげられるようにしている。
6. 夜間に実施することで、社会人院生が受講しやすくしている。
7. 福井県内の製造業を対象とした企業訪問を行うことで、社会人院生にとっても他社における企業経営の実態を知る貴重な機会を提供している。

☆本年度学外実習**【フィールドワーク等　１件】**
・光生アルミニューム工業株式会社（福井市）2023 年 7 月 17 日訪問　※合同

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
専攻演習Ⅱ（4）博士前期課程１年次後半 – 2 年次前半

② 内容・ねらい
1. 文献・資料のサーベイを行って先行研究をフォローし、専攻演習Ⅰで作成した「修士論文構想案・研究計画案」を練り上げて、修士論文の方向性を定めていくとともに、企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行う
2. 企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行うことで実態について知見を深める。
3. 修士論文中間報告会の報告資料案を作成し、報告を行うことで、修士論文の進捗状況を確

認するとともに、その方向性や内容について客観的な視点からチェックを行う。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1.　社会人院生が受講している状況だが、あくまで学術研究ということを基礎として進めており、先行研究をフォローや事例の取り扱い方、経営学的な位置づけについても徹底指導している。 2.　一方で、実務経験を踏まえた研究テーマとすることで、理論と実践とを組み合わせることで、実証研究としてのレベルを高めている。 3.　ゼミは夜間に遠隔形式で実施することで、受講しやすくしている。
(2)その他の教育活動
内容 1.　企業訪問については、教育活動の項目に記載しているが、こうした活動については、マスコミや本学 WWW サイトを通じて取り上げてもらうように、広報担当を通じて働きかけを行うことで、本学の活動を対外的にアピールし、大学そのものの広告宣伝につなげるとともに、本学学生の就職先開拓につながった。 2.　学生の課外活動としては、女子バレーボール部の顧問を担当している。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】
③その他論文（査読なし） ・ 木野龍太郎「繊維産業における人材確保に向けた取り組みの紹介－大学での特別企画講座実践記録－」（株式会社東レ経営研究所編『経営センサー』第 251 号、pp.39-44、2023 年 4 月） 【1 本】
④学会発表等 ・ 木野龍太郎「地域資源の活用を通じた経営学教育の充実に関する実践報告－地方のものづくり企業との連携を通して－」工業経営研究学会第 38 回全国大会（九州産業大学）2023 年 8 月 31 日） 【1 件】
⑤その他の公表実績 ・ 木野龍太郎「福井県の産業発展に福井県工業技術センターが果たす役割」地域経済研究所メールマガジン 2023 年 12 月 27 日号。 【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
なし
(3)特許等取得
なし
(4)学会活動等
・学会での役職 なし
・ 学会でのコメンテーター、司会活動 なし

５．地域・社会貢献活動

① -1　なし ① -2 ・ふくい DX 加速化補助金審査委員会・委員（2023 年 6 月 1 日 - 2024 年 3 月 31 日） ・2023「シン・ものづくり企業」のためのデジタル変革応援事業 支援企業選考委員会（2023 年 11 月 7 日 - 2024 年 3 月 31 日） ① -3 ・越前陶芸公園指定管理者選定委員会・委員長（越前市・2023 年 8 月 8 日、10 月 16 日） ① -4　なし ②　なし ③　なし ④　なし ⑤　なし ⑥ ・2023 年 合同講演会（協同組合鯖江市繊維協会、鯖江商工会議所繊維業部会、鯖江織物技術伝承の会）「繊維産地・福井の未来を考える」（2023 年 3 月 10 日実施） ・2023 年前期公開講座（本学）「親子で学ぶ経営学―ピンチをチャンスに変える福井の繊維メーカーの事例より―」（2023 年 6 月 24 日）**【ゲストスピーカー　1 名】** ゲスト講師：冨士経編株式会社製品事業部 取締役部門長 揚原 建一郎 様 ・『福井新聞』2023 年 6 月 25 日掲載（公開講座・親子で学ぶ経営学） ⑦　なし

６．大学運営への参画

(1)補職
・ 経営学科長
(2)委員会・チーム活動
・ 学部内学生支援チーム（障害学生支援部会） ・ 学部内就職支援チーム（就職支援部会） ・ コース制検討委員会 ・ 1 年生相談担当 ・ 時間割・共通科目協議会
(3)学内行事への参加
・ 福井県立武生東高等学校・保護者向け入試説明会（2023 年 7 月 25 日） ・ 福井県内進路指導部担当者との意見交換会（2023 年 8 月 8 日） ・ オープンキャンパス・学科紹介（2023 年 8 月 6 日） ・ 白樫祭ミニオープンキャンパス・学部紹介（2023 年 10 月 13 日） ・ 東進ハイスクール・経済学部紹介動画出演
(4)その他、自発的活動など
・ 立命館大学福井県同友会・常任幹事